



えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り No.12
令和3年11月12日
文責：校長 福島

お弁当の時間



自然教室お弁当の時間の、たわいもない1コマにしばしお付き合いください。

「校長先生、一緒にお弁当食べましょう。」「えー、うれしいですねえ。ありがとうございます。」誘ってくれたのは、3年生の時に毎週月曜日の「学びや春日」で校長室で私と勉強していた子でした。そのことが誘ってくれたことと関係あるかどうかはわかりませんが、うれしかったです。「学びや春日、覚えていますか。」「はい、覚えています。」「大きく立派になったね。」そんな話をしながらグループの輪に案内してくれました。

「おじゃまします。」輪の中に腰を下ろそうとすると、「いいなあー！」周りのグループからそんな声が聞こえてきました。なんてかわいい子供たちでしょう。ありがとうございます。

感染対策をしながらも子供たちと会話を楽しみました。隣の子のお弁当にはミニトマトが入っていました。「私トマト嫌いなんです。でもいつもお弁当には入っているんです。」トマトの話でずいぶん盛り上がりました。「低学年のころ、トマトを口の中に1時間くらい入れたままにしていたことがあったんですよ。最後はお茶で流し込みました。」「1時間も入れていたらとけなかったの？よくねばりましたね。」笑ってしまいました。「うー、この目玉が食べるとにらんでいる気がする…。」かわいいピックにおうちの方の愛情を感じました。見ていると、トマトとにらめっこをするように、渋い顔をしながら半分ずつかじって食べてしまいました。「食べられたじゃない。よかったね。きっとおうちの方も喜んでくれるよ。」

あっという間にお弁当の時間が終わりました。「校長先生、ありがとうございました。とっても楽しかったです。」さわやかなその子のあいさつが心地よかったです。

後日談ですが、おうちでのことを聞いてみました。その子は自分から「お母さん、トマト食べたよ！」と報告したそうです。お母さんもとても喜んでくれたということでした。

私は校長という立場で子供と接する機会は減りましたが、子供の小さな心の変化が見える教師であり続けたいと思っています。そのためには「ゆとり」が大切です。職員にもいつもそのことを言っています。ゆとりは環境を整えてもらうことと、自分の努力でつくっていくものです。